



女将の名上ケエ子さんと日高真誠准教授

## 帰ってきた真田剣士

不忍通りから一本裏に入った路地、赤ちようちんがなければ、およそ居酒屋とは思えない築110年の古民家が「根津の甚八」だ。すっかり年季の入った引き戸を開くと、ほんのり暗い隠れ家風の空間。迎えてくれる女将の名上ケエ子さんはこの店を切り盛りし、今年でちょうど20年。二代目である。

とはいえ、初代とはまるで面識がない。実はこの店、もう30年以上前からあったが、一度は主人が店を畳んでいる。その数年後、「居酒屋を始めたい」と一念発起した名上さんが、たまたま不動産屋で紹介されたのがここだった。不本意だったが、不動産屋のアドバイスに従い、内装にもほとんど手を入れず、真田十勇士に由来する店名もそのまま使うことにした。すると、開店早々、店内は満員の客で埋まった。ここを鼻

屑にした人たちが再開を待ちわびていたのである。分子育種学研究室の日高真誠先生も開店後まもなく馳せ参じた



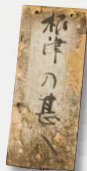
一人。大学を卒業する頃から、つまり先代の時代から慣れ親しんできた店だ。女将さんが「縁あって、この地でお店を始めましたが、ほんとにお客様に恵まれています」と上品な笑みをもらす。

手際よく出される、とりの紅茶煮と煮玉子、かりかりじゃこ豆腐といった肴が酒好きにはたまらない。鴨鍋とねぎま鍋は冬場だけでなく、夏も人気の看板メニュー。日高先生はいつも日替わりの「本日の冷酒」を楽しみながら箸を進める。何しろ微生物は専門分野。昨年から生命化学・工学専修の学生実験で日本酒の試験醸造も開始しており、麹菌とは切っても切れない関係なのだ。

店はカウンターが7席、奥に8畳の小上がり。一人飲みも、仲間とのワイワイも楽しい。この日も撮影が終わった夕刻、一人の男性客が入ってきた。聞けば、仕事を終えた後、一皿の肴でビールを飲み、サッと切り上げて帰宅するのが習慣だという。そんな江戸っ子らしい粋が絵になる店である。



古い格子戸とその向こうの和室が、池波正太郎の時代小説に出てきそうな雰囲気。



### Information



お問い合わせ

**根津の甚八**

住所: 文京区根津2-26-4 電話: 03-5685-1387

<営業時間> 17:30~22:00 土曜・日曜定休

The tavern is 110-years-old folk house. The name comes from Sanada's brave warrior.

